

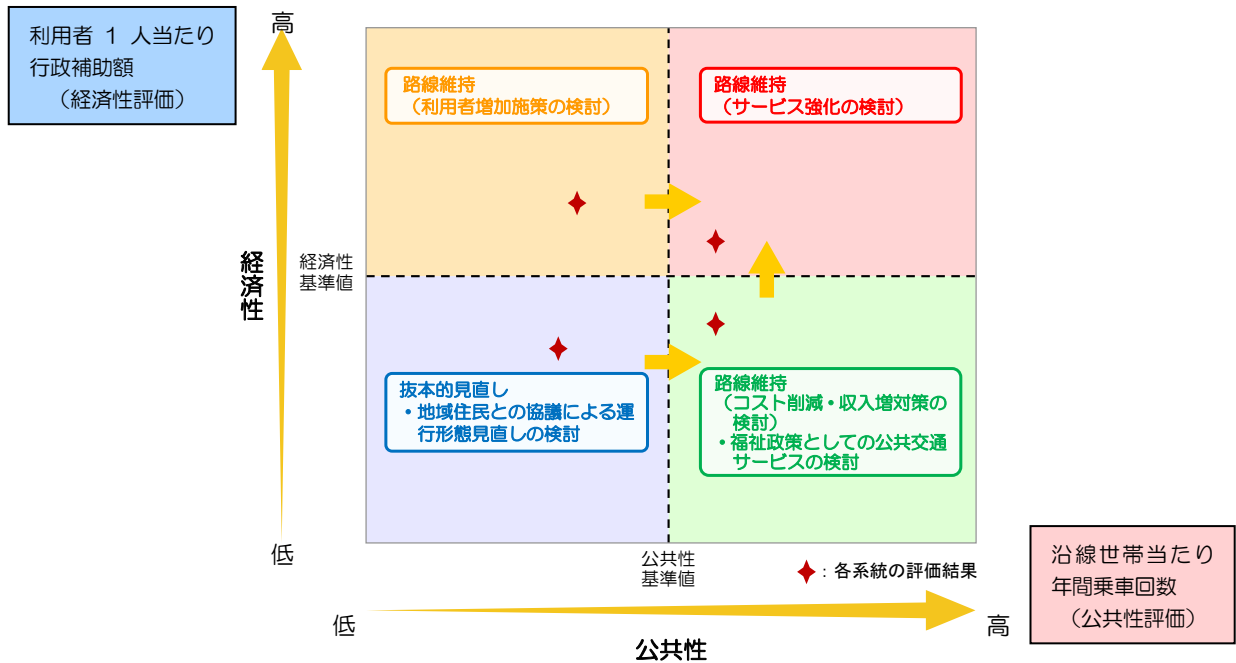
公共交通事業の路線評価方法の見直しについて

1. 公共交通事業の路線評価方法変更の経緯

1.1 現行の路線評価

現行の路線評価としては、以下に示すとおりであり、「経済性評価」と「公共性評価」の2軸にて評価を行っており、「経済性評価」は「利用者1人当たり行政補助額：2,000円/人」、「公共性評価」は「沿線世帯当たり年間乗車回数：2.0回/世帯」としている。

＜ 公共交通事業の路線評価のイメージ ＞



＜ 路線評価における経済性及び公共性評価の基準値 ＞

	経済性評価	公共性評価
	利用者1人当たり行政補助額 ^{※1}	沿線世帯 ^{※2} 当たり年間乗車回数
基準値	2,000円/人 ^{※3}	2.0回/世帯 ^{※4}

- ※1) 行政補助額は、国・県・市合計の補助額を対象として評価
- ※2) 沿線世帯は、鉄道駅から半径500m以内、バス停から半径300m以内の世帯を対象として評価
- ※3) 経済性評価の基準値は、各地区から北条のまちなかまでタクシーを利用した場合(約5km)の運賃と同程度の基準値2,000円/人(年間)と設定
- ※4) 公共性評価の基準値は、鉄道駅やバス停沿線に住んでいる世帯のうち、誰か1人が1年間に最低1往復するという考え方のもと、基準値を2.0回/世帯と設定

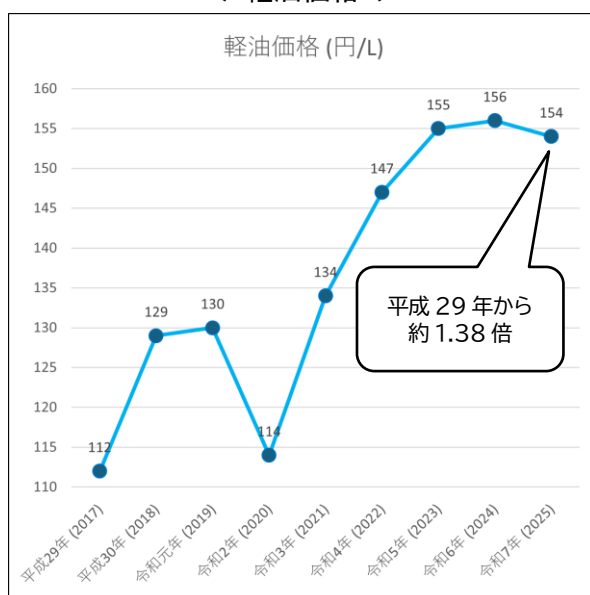
1.2 路線評価設定以降の社会情勢の変化

現行の路線評価の考え方や基準値については、平成30年3月に策定した「加西市地域公共交通網形成計画」から設定されている。

これまで、当該路線評価の基準に従って地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価等を行っているものの、およそ7年も前の基準であり、昨今の燃料費や人件費等の高騰により、当初と現在の状況に乖離が発生していると考えられる。また、新型コロナウイルス感染症による交通事業者の経営悪化やニューノーマルにおける利用者のライフスタイルの変化等により、利用者数の減少やバスの利用のされ方にも変化が生じており、コロナ禍前である当初の基準がそのまま適用できないと考えられる。

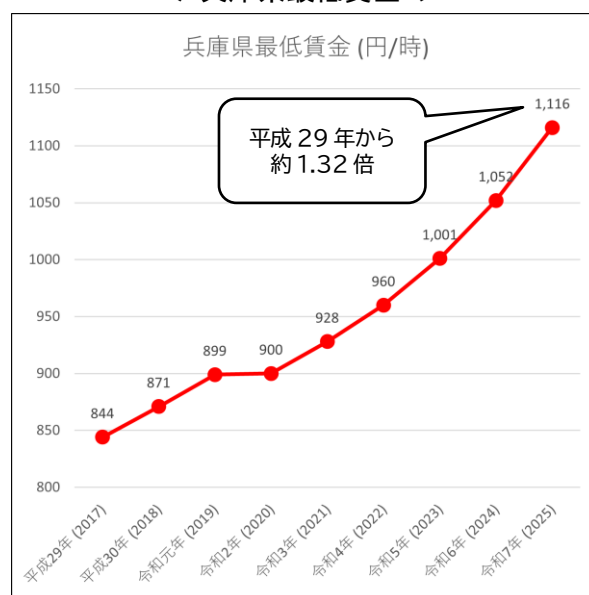
以上の背景を踏まえて、今回の検討では路線評価の基準値を見直すこととした。

< 軽油価格 >



出典) 経済産業省 資源エネルギー庁

< 兵庫県最低賃金 >



出典) 厚生労働省 兵庫労働局

2. 公共交通事業の路線評価方法変更（案）

2.1 基準値変更の考え方

基準値変更の考え方は、以下に示すとおりである。

【共通事項】

- 「経済性評価」と「公共性評価」の考え方はそのまま、「経済性評価」は「事業効率性評価」、「公共性評価」は「地域受容性評価」に変更
- 従来のねっぴ〜号とはっぴーバスの評価指標は「加西市地域公共交通計画」に示しており、また、地域主体型交通の評価指標は「地域主体型交通運営の手引き」に示している

【ねっぴ〜号・はっぴーバス】

- 事業効率性評価の指標は、当初と同じ「利用者 1 人当たりの行政支出額」とするが、「2,000 円/人」については、巻末の「公共交通の運行等に対する補助金及び運行委託等（加西市一般会計関連分）」の「バス運営委託業務（はっぴーバス運行経費）」及び「コミュニティバス負担金（ねっぴ〜号運行経費）」の対象経費を用いて、平成 29 年時点の費用と令和 6 年時点の費用を除算（令和 6 年÷平成 29 年）した比率を「2,000 円/人」に乗じて算定して 1,000 円/人単位で切り上げ（令和 6 年度コミュニティバス負担金に令和 4 年から運行を開始している sora かさいが入っているため、その分を減算して算定）
- 地域受容性評価の指標は、沿線のクルマを気軽に利用できない人（市内全体では約 23%）の人口（北条地区の人口を除く）を系統毎に算定し、年間利用者数から除算した「沿線のクルマを気軽に利用できない人の 1 人当たりの年間乗車回数」とする。基準値は、クルマを気軽に利用できない人に年間 1 回（1 往復）はバスを利用してもらうという目標として、2 回/人とした

【地域主体型交通】

- 事業効率性評価の指標は、ねっぴ〜号・はっぴーバスと同様
- 地域受容性評価の指標は、地域主体型交通導入検討の際に「外出に関する聞き取り調査」結果から算定した「公共交通最大需要量」全体の 1 割（クルマを気軽に利用できない人の移動手段の「鉄道」「路線バス・コミュニティバス」の約 1 割〔令和 3 年近畿圏パーソントリップ調査結果〕と同等程度という考え方）の利用者数を設定

2.2 基準値変更（案）及び路線評価結果

基準値変更（案）及び路線評価結果は、以下に示すとおりである。

< 基準値変更（案） >

ねっぴ〜号・はっぴーバスにおける事業効率性及び地域受容性評価の基準値変更(案)

	事業効率性評価	地域受容性評価
	利用者1人当たり行政支出額	沿線のクルマを気軽に利用できない人の1人当たりの年間乗車回数
基準値	3,000円/人	2回/人

地域主体型交通における事業効率性及び地域受容性評価の基準値変更(案)

	事業効率性評価	地域受容性評価
	利用者1人当たり行政支出額	公共交通最大需要量
基準値	3,000円/人	「公共交通最大需要量」全体の1割以上の利用者数

< 路線評価結果 >

種別	系統名	利用者1人当たり行政支出額(円/人)	沿線のクルマを気軽に利用できない人の1人当たりの年間乗車回数(回/人)	評価結果
ねっぴー号	市街地線	1,748	5.34	路線維持(サービス強化の検討)
	国正線	2,834	2.95	路線維持(サービス強化の検討)
	九会線・フラワーセンター線	1,800	5.40	路線維持(サービス強化の検討)
	soraかさい線	4,176	3.01	路線維持(コスト削減・収入増対策の検討)
はっぴーバス	万願寺線	2,734	6.80	路線維持(サービス強化の検討)
	若井線	3,654	6.58	路線維持(コスト削減・収入増対策の検討)
	芥田線	3,825	6.13	路線維持(コスト削減・収入増対策の検討)
	根日女線 ※	7,408	0.74	抜本的見直し

※根日女線は水曜日のみ運行であるため、参考値

種別	系統名	利用者1人当たり行政支出額(円/人)	「公共交通最大需要量」全体の1割(回/年)	年間利用者数(人/年)	評価結果
地域主体型交通	宇仁ふれあいバス	5,287	454	738	路線維持(コスト削減・収入増対策の検討)
	とみバス	2,446	1,774	704	路線維持(利用者増加施策の検討)
	ひよタク	2,635	964	1,344	路線維持(サービス強化の検討)

巻末資料：公共交通の運行等に対する補助金及び運行委託等（加西市一般会計関連分）

・平成 29 年度

平成29年度 公共交通の運行等に対する補助金及び運行委託等(加西市一般会計関連分)

科目	補助金名称	団体等名称	対象経費 (千円)	特定財源		加西市 負担額	延長 (km)	年間 利用者 (人)	一人当 補助額 (円)	支出目的
				国	県					
10.総務費 05.総務管理費 21.企画費	バス運営委託業務	加西親栄自動車(有) NPO法人原始人の会	14,749	1,728 地域内フィーダー系統補助	-	13,021	86.8	6,789	2,173	はっぴーバスの運行・運營業務委託、予備車両保守点検業務委託
	コミュニティバス負担金	神姫バス株式会社	28,797	4,873 地域内フィーダー系統補助	-	23,924	95.9	20,758	1,387	コミバスねっぴ〜号(市街地線・国正線・九会線・フラワーセンター線)の運行
	バス対策費補助金等	神姫バス株式会社	26,855	-	13,146	13,709	64.5	-	-	県と協調しバス路線維持確保(一部国との協調)
	北条鉄道運営費補助金	北条鉄道株式会社	16,200	-	-	16,200	13.6	328,176	77	経営基盤の安定を図るため経常損失を補助(北条鉄道の固定資産税相当額9,295千円) (参考:小野市補助額588千円)
	安全輸送設備等整備費補助金(国・地方協調補助)	北条鉄道株式会社	3,861	-	-	3,861				北条鉄道の安全性向上のため設備等整備への補助 国・地方協調補助割合 (国1/3・県1/6・市1/6・事業者1/3)
	北条鉄道設備等整備費補助金(市単独補助)	北条鉄道株式会社	5,228	-	-	5,228				北条鉄道の安全性向上のため設備等整備への補助 対象事業費の1/2補助 (市長が特に必要と認める場合は全額)
合計			95,691	6,601	13,146	75,944				

・令和 6 年度

令和6年度 公共交通の運行等に対する補助金及び運行委託等(加西市一般会計関連分)

科目	補助金等名称	団体等名称	対象経費 (千円)	特定財源(千円)		加西市 負担額 (千円)	年間 利用者 (人)	一人当 補助額 (円)	支出目的
				国	その他				
10.総務費 05.総務管理費 21.企画費	バス運營業務委託	加西親栄自動車(有) NPO法人原始人の会	20,793	-	-	20,793	5,396	3,853	はっぴーバスの運行・予備車両保守点検業務委託(加西親栄20,487千円) 運営一部業務委託(原始人会306千円)
	コミュニティバス負担金	神姫バス(株)	47,400	6,332 地域内フィーダー系統補助	-	41,068	22,324	1,840	コミバスねっぴ〜号(市街地線・国正線・九会線・フラワーセンター線・soraかさい線)の運行
	バス対策費補助金等	神姫バス(株)	43,790	-	-	43,790	-	-	県、近隣市町と協調しバス路線維持確保(一部国との協調)
	北条鉄道運営費補助金	北条鉄道(株)	32,163	-	-	32,163	392,296	218	経営基盤の安定を図るため経常損失を補助(北条鉄道の固定資産税相当額9,146千円) (参考:小野市補助額884千円)
	安全輸送設備等整備費補助金(国・地方協調補助)	北条鉄道(株)	13,967	-	-	13,967			北条鉄道の安全性向上のため設備等整備への補助 国・地方協調補助割合 (国1/3・県1/6・市1/6・事業者1/3)
	北条鉄道設備等整備費補助金(市単独補助)	北条鉄道(株)	39,293	-	-	39,293			北条鉄道の安全性向上のため設備等整備への補助 対象事業費の1/2補助 (市長が特に必要と認める場合は全額)
合計			197,406	6,332	0	191,074			

47,400,000円×距離割合10.9%=5,166,600円(soraかさい経費相当分)
47,400,000円-5,166,600円=42,233,400円(soraかさい経費除外後対象経費)

■「沿線のクルマを気軽に利用できない人の1人当たりの年間乗車回数」算定結果の詳細

系統	地区	沿線人口 [人] 【A'】	クルマを気軽に 利用できない人の 割合 【B】	沿線のクルマを気軽に 利用できない人口 [人] 【C'=A'×B】	年間利用者数 [人/年] 【D】	沿線のクルマを気軽に 利用できない人の1人 当たりの年間乗車回数 【D÷C'】	
ねっ ぴ 号	市街地線	北条地区	6,189	29.6%	1,831	10,445	5.34
		富合地区	62	5.6%	3		
		泉地区	768	15.6%	120		
		計	7,019	-	1,954		
	国正線	北条地区	1,699	29.6%	503	2,744	2.95
		宇仁地区	653	18.9%	124		
		富合地区	1,070	5.6%	60		
		日吉地区	831	29.1%	242		
		泉地区	14	15.6%	2		
		計	4,267	-	930		
	九会線・ フラワーセンター線	北条地区	3,500	29.6%	1,035	7,864	5.40
		富合地区	131	5.6%	7		
		賀茂地区	75	17.1%	13		
		下里地区	383	20.9%	80		
		九会地区	1,158	27.7%	321		
		計	5,247	-	1,456		
	soraかさい線	北条地区	1,233	29.6%	365	1,271	3.01
		富合地区	227	5.6%	13		
		下里地区	5	20.9%	1		
九会地区		160	27.7%	44			
計		1,625	-	423			
はっ ぴ バス	万願寺線	泉地区	635	15.6%	99	2,367	6.80
		西在田地区	1,168	21.3%	249		
		計	1,803	-	348		
	芥田線	泉地区	1,122	15.6%	175	1,074	6.13
	根日女線	日吉地区	344	29.1%	100	100	0.74
		泉地区	226	15.6%	35		
		計	569	-	135		
	若井線	泉地区	360	15.6%	56	1,855	6.58
		西在田地区	1,059	21.3%	226		
		計	1,420	-	282		

※ 市街地線以外の沿線人口は、北条地区内の主要バス停を除いた沿線人口を適用

※ 北条地区主要バス停:イオンモール加西北条、アスティアかさい、横尾南、市役所前、市役所正面口、加西病院